

8 / 16 『平和の神による平安』（ピリピ4：6～9）

長谷川望牧師

- *戦争は国単位の人殺し合いである。日本だけで300万人、アジアで2000万人、ヨーロッパ戦線含めて6千～8千万人が先の戦争で命を落としたと言われている。戦時中は勿論戦後も多くの方が筆舌に尽くしがたい様々な苦難をなめたが、戦争を体験した人はますます少なくなる。語り継いでいかなければならない。正義のための戦争などない。勝者も敗者もない。戦争のない、武器のない世界を求めていかなければならない。私たちはクリスチャンとしてイエス・キリストの平和に基づいた平和を作り上げていくことを求められている。
- *平和な時でも私たちの日常生活は様々な「思い煩い」で一杯である。「思い煩い」がない人生は存在しない。聖書には人々の思い煩いの例が無数に描かれている。肉体的、精神的病の苦しみ、色々心配な気遣い、身の危険が迫っている恐れ、日常生活に必要な物がない不安、等々。今の世も全く同じである。できれば思い煩いたくない。どうすれば思い煩いから解放されるか。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」（ピリピ4：6）
- *祈りがその秘訣である。その祈りについて2つの大切なことが示されている。その1. 神様に祈りの内容を知ってもらう事。すなわち、はっきりとした意識を持って祈ること。一体自分は何を祈っているのか、本当は神様に何をしていたきたいのか、わからないのでは神様も聞きようがない。その2は、祈りの時には感謝をもって祈ること。神様が与えてくださる恵みへの感謝を絶やさないこと。